

漢字かな交じり文を書く(1) 締切り 一月二十五日(必着)

わらべうた(正月)  
 正月は ええもんだ  
 赤いべ着て羽子ついて  
 譲りの葉のよな餅食って  
 雪のよなまま食って  
 木片のよな魚添えて  
 正月は ええもんだ

奥村憲照先生書

◎書道のジャンルには、大別して「漢字」「かな」「漢字かな交じり文」の三つがあります。今月から、この「漢字かな交じり文」を学びます。

◎実用書としてはあたり前のことですが、芸術書としては比較的新しい分野で、近代詩文書とか調和体と呼ばれています。団体によっては、新和様とか新書芸という呼称もあります。

◎今月のお手本は、実用書としての最もオーソドックスな書きぶりですが、今後は憲照先生の個性豊かな、変化のある作品も取り上げていきたいと思っています。

◎誰にでも読めて、言葉の感動をストレートに表現できる「漢字かな交じり文」の世界をお楽しみ下さい。

※落款(氏名)も作品の一部として、作品の最後に書き入れて下さい。

※お手本にある読みがなは書かなくても結構です。

〔出典〕岩波文庫「わらべうた」より

#### □作品の出し方

▼硬筆部 B5判(二五七mm×一八二mm)以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)

▼毛筆部 半紙に書いて下さい。筆ペンも可です。

▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬・毛のどちらか一方に限ります。

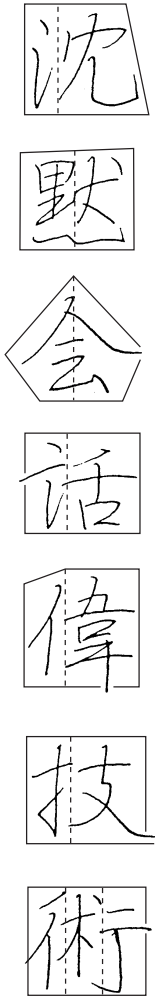
▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。

▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

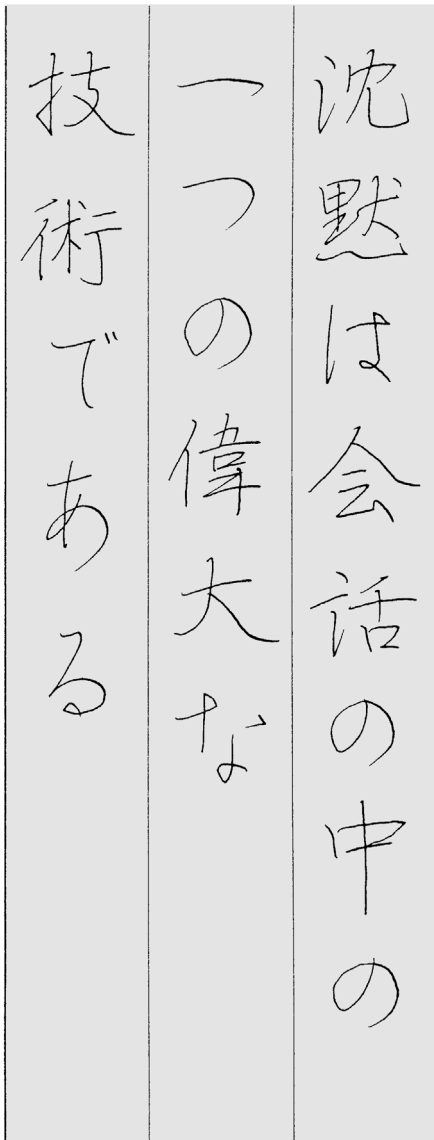
準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



▶教範・書範は右課題を「楷書」で、師範は「行草または草書」で出書して下さい。  
ペンの運びはあまり力まないで自然に運ぶ。(一定の速度とリズムで)

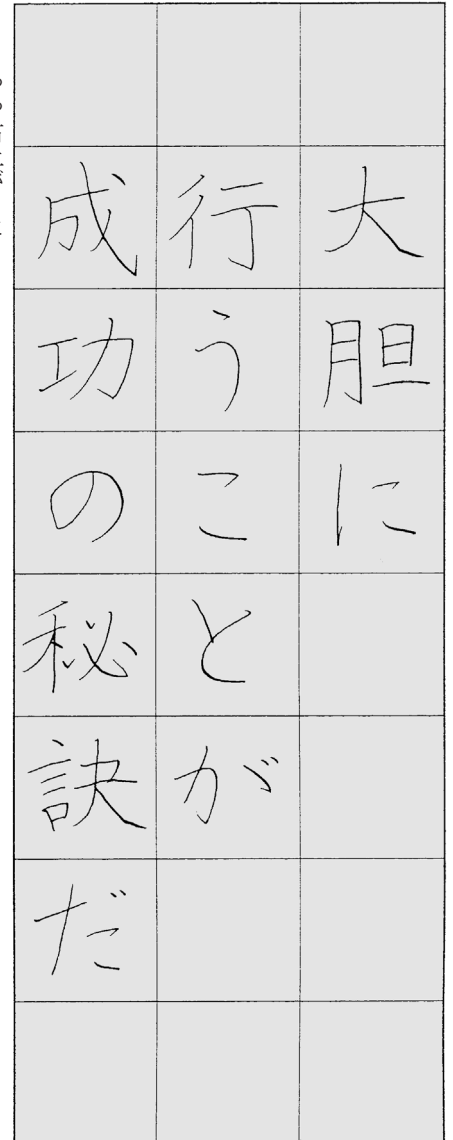
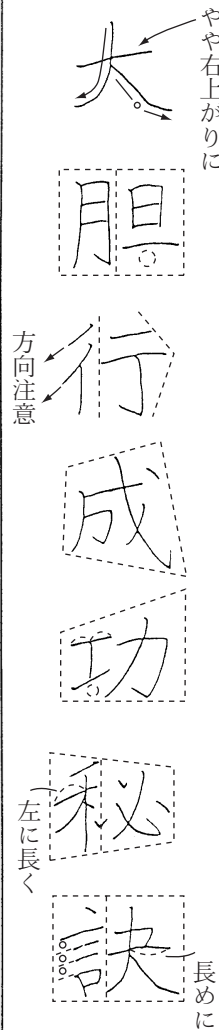


おか だ りゅう ほう 書  
岡 田 龍 芳 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕



おお たに せい じょう 書  
大 谷 清 城 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

★大胆に：(書体Ⅱ楷書)

ハイネ(一七九七〜一八五〇)

ドイツの詩人

ハイネは、甘美な恋の歌で有名ですが、自由と平等のために戦う詩人でもありました。「事をなし遂げようと思うならば、まずは用意周到な計画が肝心。あとは実行あるのみ。これまで自分が払ってきた努力を信じ、臆することなく大胆に実行するだけである。」とっています。

◆2月課題予告(行書)

時を得た一針は

九針を省く

イギリス

★沈黙は：(書体Ⅱ行書)

ハズリット(一七六〇〜一八三〇)

イギリスの批評家・随筆家

雄弁は大事なことではありませんが、それも過ぎれば軽薄さを暴露することにもなります。不要な言葉を発して問題をおこすより、沈黙を守っている方が賢明なことがあります。沈黙は、会話の上手な人の重要な技術の一つなのです。

◆2月課題予告(行草または草書)

少なければ則ち得

多ければ則ち惑う

老子

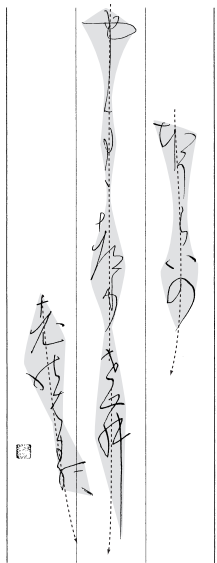
▼教範・書範Ⅱ行書

▼師範Ⅱ楷書

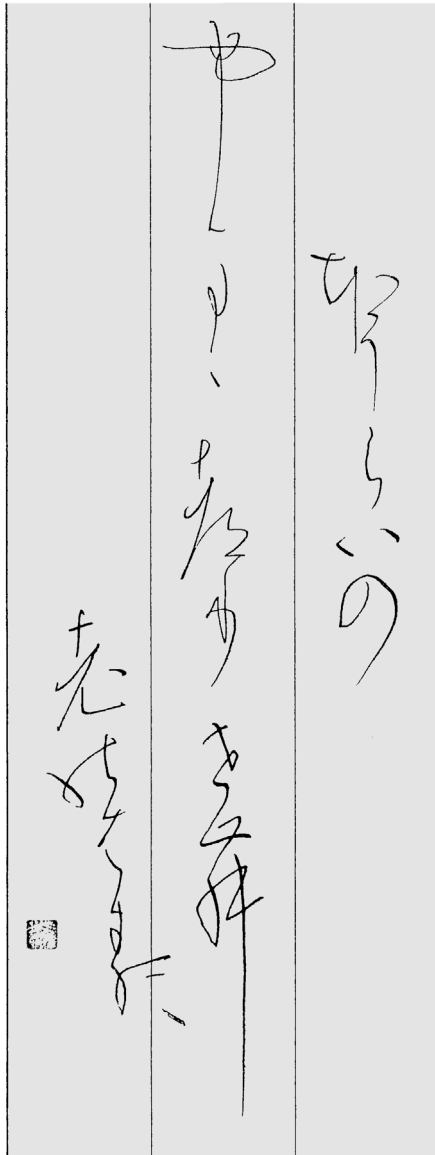
準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



本  
ほうらいの山まつりせむ老の春  
や方、郡利世舞能者願

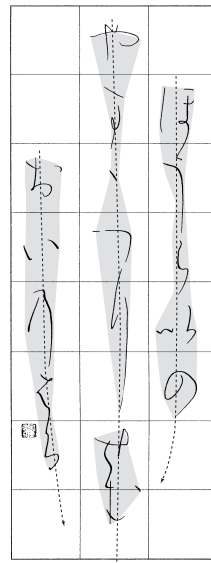


おさ 荻 田 蒼 仙 書

▷用具=自由(黒色に限る)

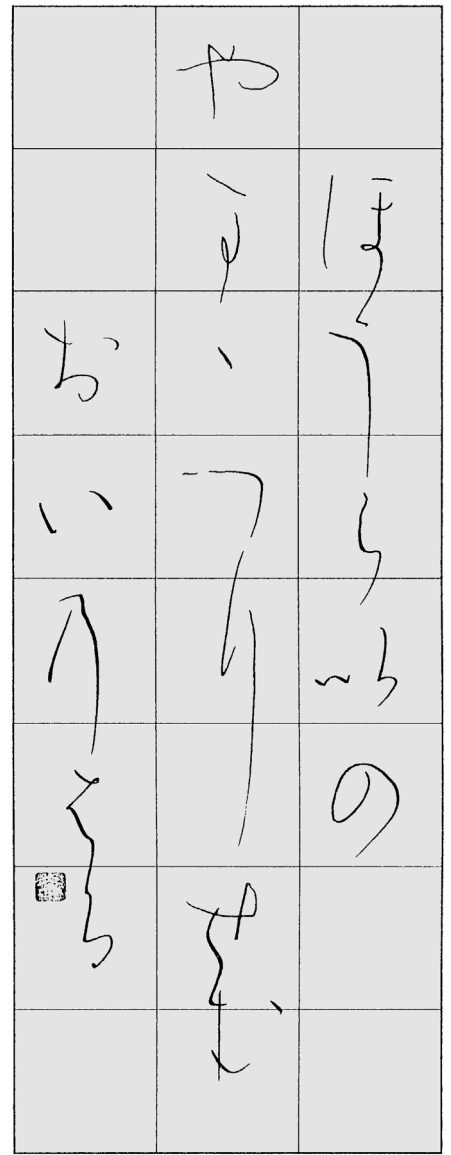
▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕



ほうらいの山まつりせむ老の春  
以や方、乃者

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。



おさ 荻 田 蒼 仙 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

ほうらいの山まつりせむ老の春 (蕪村)

〔句意〕蓬萊山は不老不死の地と考えられる霊山。新年の蓬萊飾をかけている。蓬萊の山をかざって老いの新年を祝おうの意。

〔級位ワン・ヒント〕

しっくりいかない字がある場合、置き換えて下さい。それには「かな字典」か古筆の中から正確に集字をして変換して下さい。そして変換した字が前後や周囲との調和がとれているかを、先生に見て頂く事により、自信と力がついてきます。部分の置換えから始めるのも創作の一方法です。

「は」の第一画をすっきり、「う」は中心移動。

こちんまりと書く「万」だが、のびのびと。

連綿線を短くするため「せ」を傾ける。

〔段位ワン・ヒント〕

作品とは、大小・細太・□○等、異なった字群を秩序よくまとめる事です。行の流れにも注目して下さい。各行とも二行の下あたりの焦点に向いています。そして各行とも個々の字は、僅かに右に左にぶれたがあります。本流はほぼ中を通っています。

かなは一つの句を何通りにも作品に出来ます。それは変体かなとちらしがあるからです。私の手本に捉われないで、ちらしや字を変えてみて下さい。

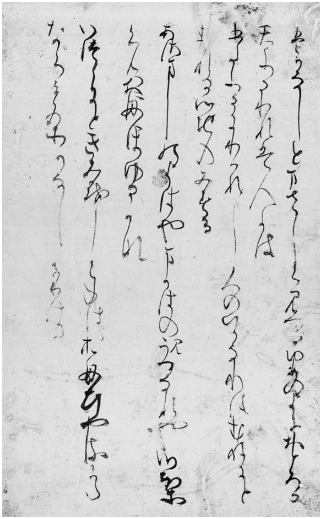
◆2月課題予告

我顔になつなとばしるうれしさよ

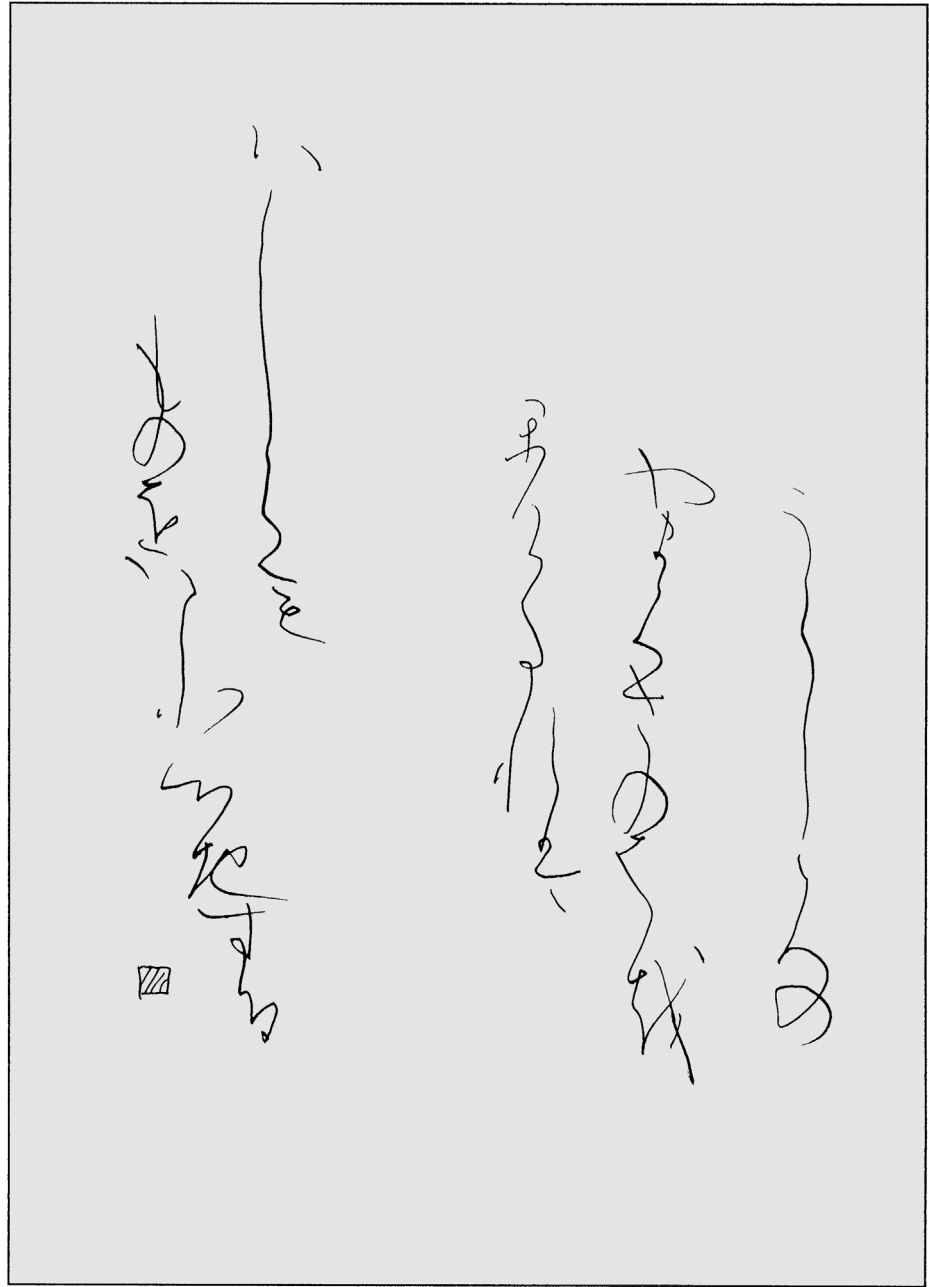
(松瀬青々)

〔古筆参考〕

いずみ しきぶぞくしゅうぎれ  
和泉式部続集切



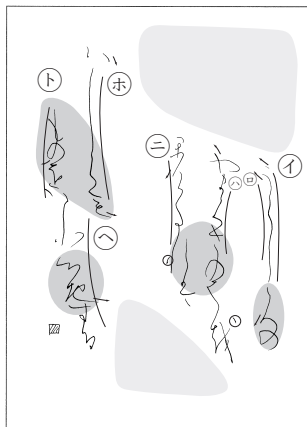
盤<sup>た</sup>可<sup>か</sup>奈<sup>な</sup>はかなしとまさしく見<sup>み</sup>つるゆめのよにおどろか  
 天<sup>てん</sup>年<sup>ねん</sup>でねるわれは人<sup>ひと</sup>かは  
 悲<sup>あはれ</sup>多<sup>おほく</sup>にわかれし人のいかなればむねにと  
 まれる心地のみす  
 佐<sup>さ</sup>万<sup>ま</sup>のよはやまかはのうづなれや心<sup>こころ</sup>ぼそ  
 くもおもほゆるかな  
 徒<sup>た</sup>毛<sup>もう</sup>にときみをしらねばおもひやるかた  
 なくものぞかなしかりける



締切り 一月二十五日(必着)

築瀬舟香書

- は一行の中の密。密の動きに注意。
- 大きな間が大切。
- ◁ の方向 ◯ 「れ」の ◯ の位置大切。
- ◆ 2月課題予告  
地はひとつ大<sup>だい</sup>白<sup>びやく</sup>蓮<sup>れん</sup>の花と見ぬ  
雪の中より日のぼる時  
(与謝野晶子)



〔解説〕

〔出典〕名歌即訳 与謝野晶子

〔歌意〕正月飾りに、裏じろの山草の葉を柱に掛けて飾ると、柱も何かものを云いたそうな心地がします。

〔八しち毛〕  
裏<sup>うら</sup>じろの山<sup>やま</sup>草<sup>くさ</sup>の葉<sup>は</sup>を柱<sup>しらべ</sup>に掛<sup>か</sup>けたれば  
柱<sup>しらべ</sup>もものを云<sup>い</sup>ふ心地<sup>こころ</sup>する

「はじめに」  
明けましてお目出度う御座居ます。昨年引続きこの頁を担当する事になりました。今年は、情熱的な与謝野晶子の歌を、奔放で情熱的な生涯を送ったと伝えられている和泉式部の家集、「和泉式部続集切」を元にした作品を作ってまいりたいと思っております。「かな」の楽しさを皆さんと共に学んでまいりましょう。

締切り 1月25日(必着)

輝ける新春を迎え、先生には益々  
ご清祥の趣き、お慶び申し上げます。  
実は、先生のご指導を熱望している  
知人がおります。次回お稽古の際  
紹介させて頂きたいと存じます。  
よろしくお願い申し上げます。

輝ける新春を迎え、先生には益々  
ご清祥の趣き、お慶び申し上げます。  
実は、先生のご指導を熱望している  
知人がおります。次回お稽古の際  
紹介させて頂きたいと存じます。  
よろしくお願い申し上げます。

◎手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

大昔、サボテンにも広い葉があり

普通の樹木と共に生えていた。

奈良県宇陀市 氏 名

※手本は、つけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 1月25日 (必着)



準初段から師範まで

奥村暢之臨  
おくむら のぶゆき



新入から1級まで (楷書)

澤静雨書  
さわしずゆ



納 著 生 於 仁 壽

〔出典〕 孔子廟堂碑 (626～633)

〔読み〕 蒼生を仁壽に納れ

〔筆者〕 虞世南 (558～638)

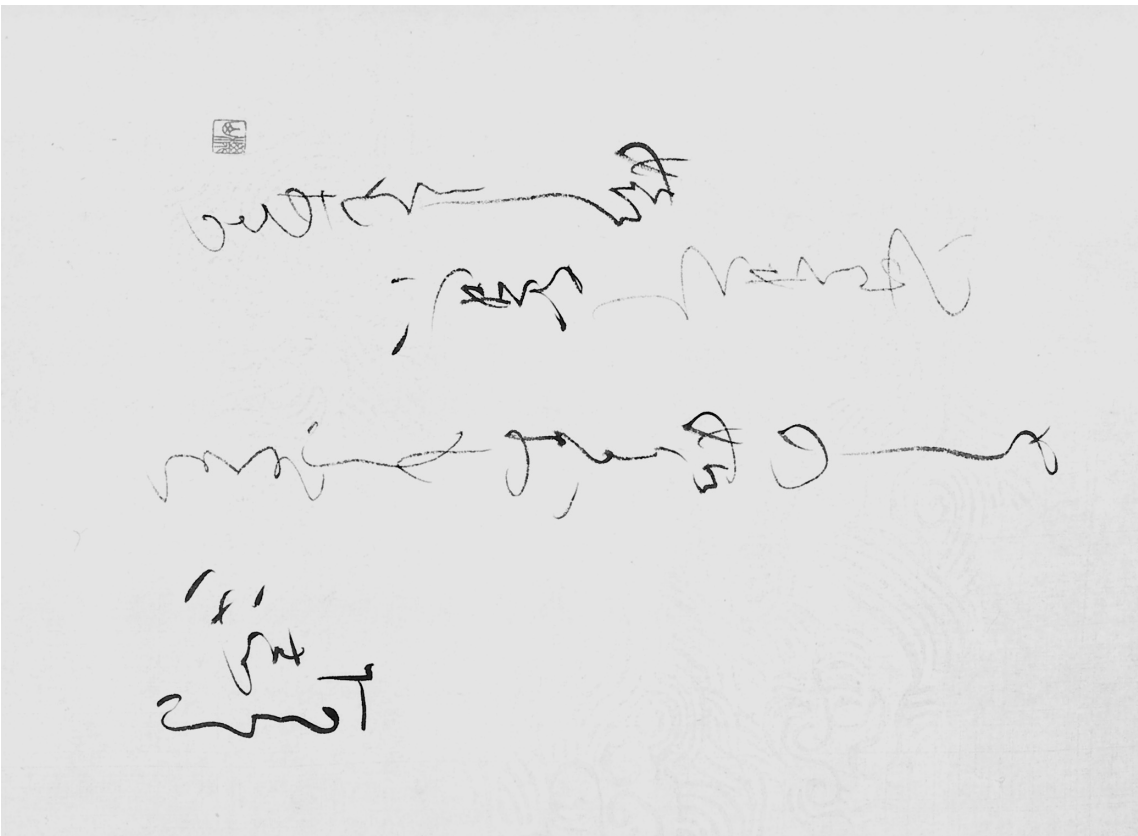
〔読み〕 天正に景禱を開く。

〔大意〕 天帝が正に大いなる幸福を開いた。



# 一般部毛筆かな課題

締切り 1月25日 (必着)



準初段から師範まで

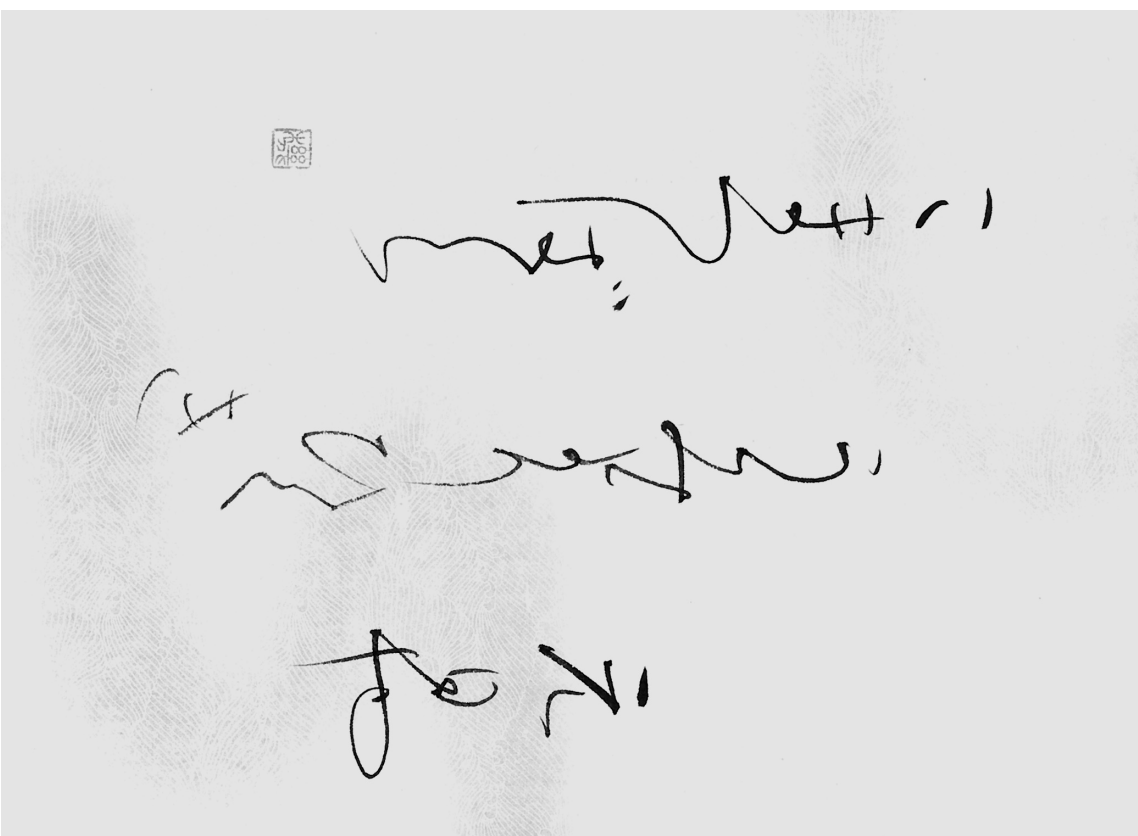
■両課題とも文字の変換、ちらし方は自由です。

元日や海よりひくき小松原

阿多志 新志 新しき年の始に思ふごと  
い群れを無進に居れば嬉しくもあるか可

〔出典〕万葉集 道祖王みちすけのみ

〔歌意〕新しい年のはじめに、気の合った者同士が集まっていると、じつにうれしいことであるよ。



新入から1級まで

浅井機山先生書

〔出典〕久保田万太郎

〔句意〕高所より海を眺望しての句である。前面に松並木の緑を配しその上に輝く海を置く。明るい穏やかな元日の景である。

一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題

締切り 一月二十五日(必着) 半切(一三六cm×三五cm)

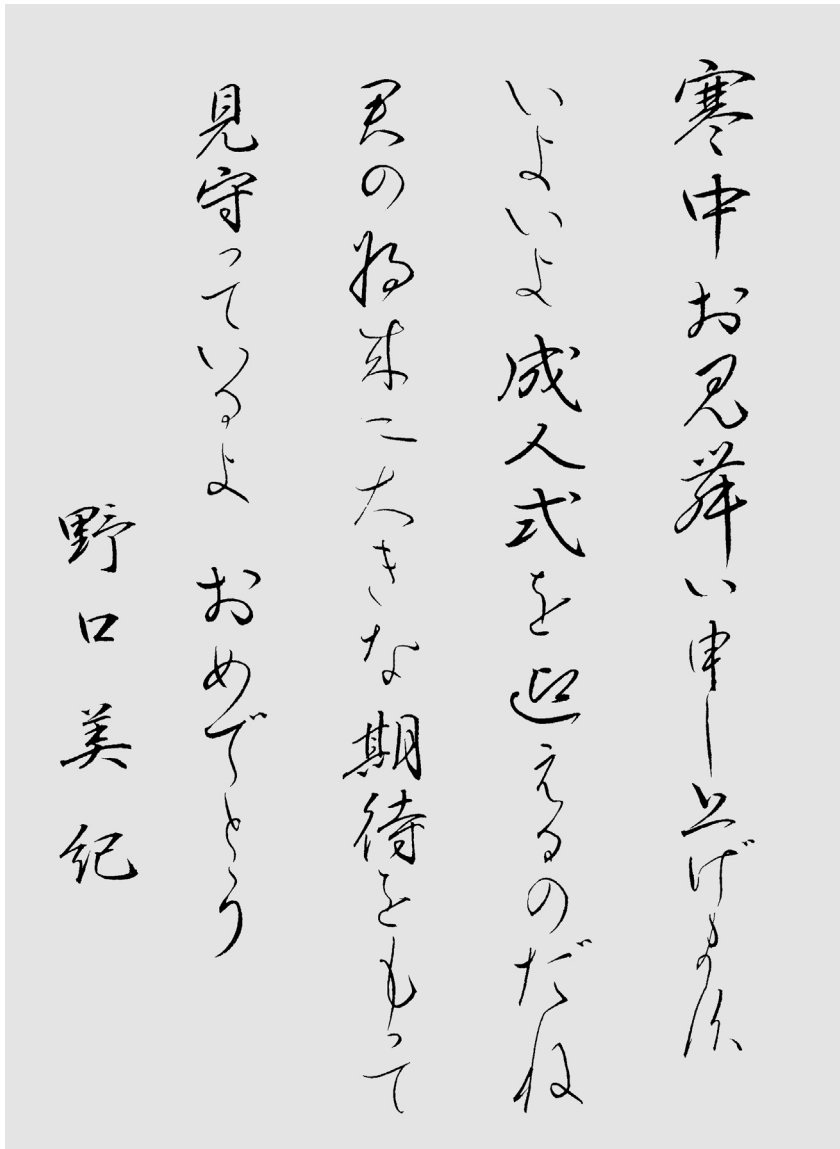


新井清泉先生書

〔大意〕林の鳥は月が上るまで鳴いて光はそこにもち、竹の中には花が散って春はもう末である。  
初出品の方へ  
支部名・会員番号・姓名・毛筆漢字成績を、作品左下に必ずお書き下さい。

〔条幅解説〕創作への展開 二 玄社・新書道字典から

邊邊邊邊 鳥鳥鳥鳥  
語語語語 微微微微  
裏裏裏裏 春春春春  
飛飛飛飛 深深深深



おお みや しゅん ちょう 書  
大 宮 春 兆 書

半紙 (334mm×240mm)

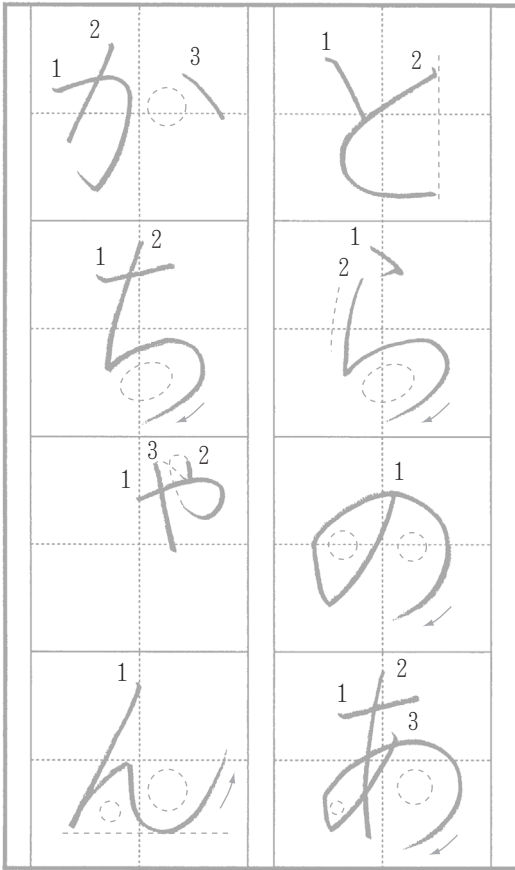
寒中お見舞い申し上げます  
いよいよ成人式を迎えるのだね  
君の将来に大きな期待をもって見守っているよ。おめでとう  
(ご自分の氏名)

・印で墨つきしました。  
〔条幅・細字作品の出し方〕

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績(天位5等)は、評価により毎月変わります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

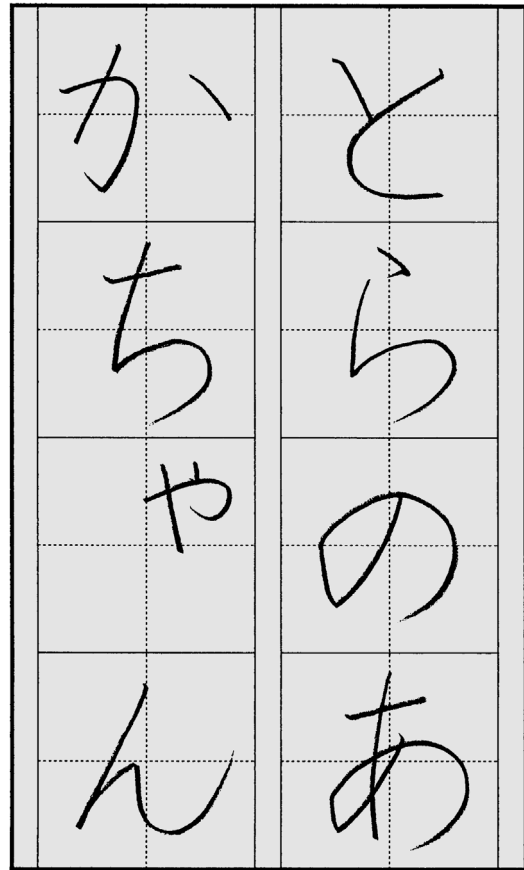


〈ようぐく自由〉(黒色にかざる)



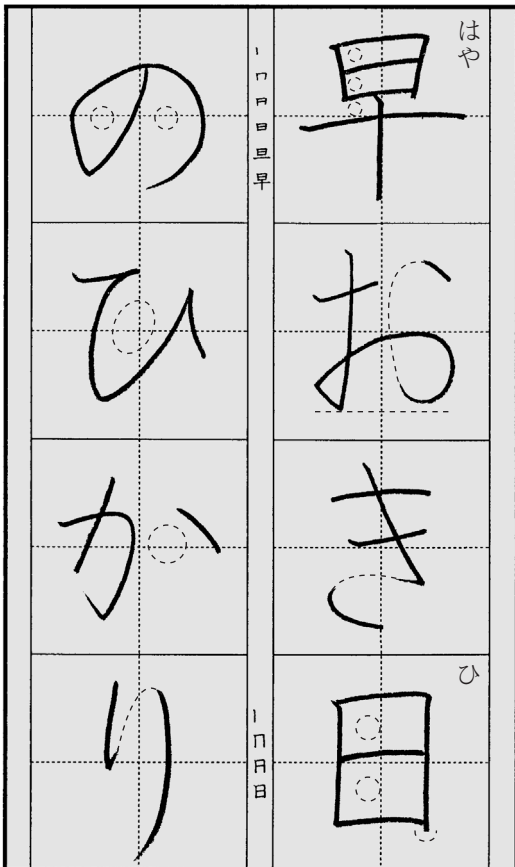
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。  
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



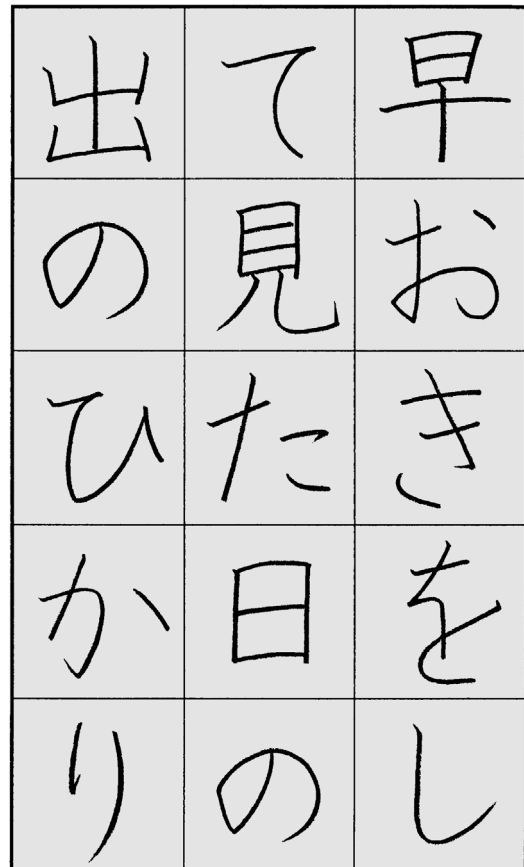
よ  
う  
年

小三年まで  
三宅容玉書



新入〜1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小  
一  
年

準初段以上

〈ようびく〉自由(黒色にかきえる)

い	新 <sup>シン</sup>
ふ	雪 <sup>セツ</sup>
じ	で
山 <sup>サン</sup>	白 <sup>しろ</sup>

新入 1級

つ	き	新
た	れ	雪
ふ	い	で
じ	に	白
山	な	く

準初段以上

小二年

準初段以上

る	平 <sup>ヘイ</sup>
い	和 <sup>ワ</sup>
年 <sup>とし</sup>	で
に	明 <sup>あか</sup>

新入 1級

か	い	平
ら	年	和
ね	に	で
が	と	明
う	心	る

準初段以上

小三年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

初	元
も	日
う	の
で	朝

はつ  
ニテ元  
ガン  
ジツ  
一日日  
あさ  
車朝朝

〈用具〉自由(黒色に限る)

新入1級

う	神	元
で	社	日
に	へ	の
行	初	朝
く	も	は

小四年

準初段以上

一	厚
帯	新
光	雪
	里

イツ  
一厚厚厚厚  
あつ(い)  
タイ  
一帯帯帯帯  
シン  
ひか(る)  
二雪雪雪雪  
セツ  
一光光光光  
一里里里里  
さと

小四以上 尾郷翠光書

解説(よく見て習いましょう)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

一	お	厚
帯	お	い
が	わ	新
光	れ	雪
る	里	に

小五年

(全員)

小六年

夢	は	若
と	未	者
希	来	の
望	へ	胸
が	の	に

(全員)

解説(よく見て習いましょう)

来 ライ 一 口 五 半 来 来	若 わか ハ ナ ナ 若 若
夢 ゆめ 一 廿 廿 夢 夢 夢	者 もの エ ナ 者 者 者
希 キ 一 ム ナ 希 希	胸 むね 月 胸 胸 胸 胸
望 ボウ 一 セ 切 切 望	未 ミ 一 ニ 半 未

〈よつぐく自由(黒色に限る)〉

中一年 (楷書)

に	青	自
共	年	然
感	の	を
し	活	守
た	動	る

中二・三年 (行書)

力	を	理
を	目	想
尽	指	の
く	し	実
す	全	現

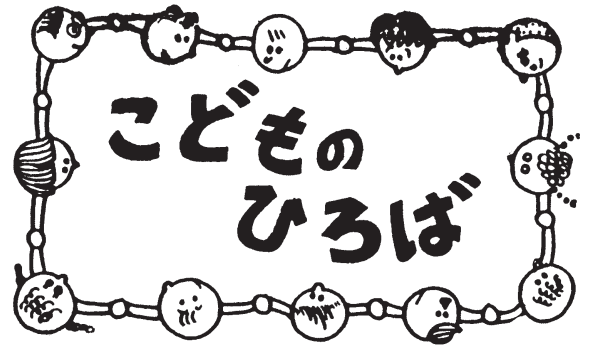
◎お手本は、15マスはつけペン、8マスはデスクペンで書きました。

▼小三年以下の課題 はやし 林 せい 成 か 香 書

取 <small>と</small>	二 <small>に</small>	が	一 <small>いっ</small>	カ
れ	十 <small>じゅう</small>	ん	生 <small>しょう</small>	ル
た	四 <small>よん</small>	ば	け	タ
よ	ま	っ	ん	大 <small>たい</small>
	い	た	命 <small>めい</small>	会 <small>かい</small>
	も	ら		で



◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 1月25日(必着)

習っていない漢字は、  
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 ふる 古 かわ 川 きょう 京 か 佳 書

お	大 <small>おお</small>	祖 <small>そ</small>	お	鏡 <small>かがみ</small>
し	き	母 <small>ぼ</small>	も	開 <small>ひら</small>
る	な	が	ち	き
こ	鍋 <small>なべ</small>		を	で
作 <small>つく</small>	に		割 <small>わ</small>	
る			っ	
よ			て	



◎お手本はつけペン使用

◇作品の出し方

- 一、選定用紙(五行・四行)に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名(校名)学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。(黒色に限る)
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。





小 二 年

小 一 年

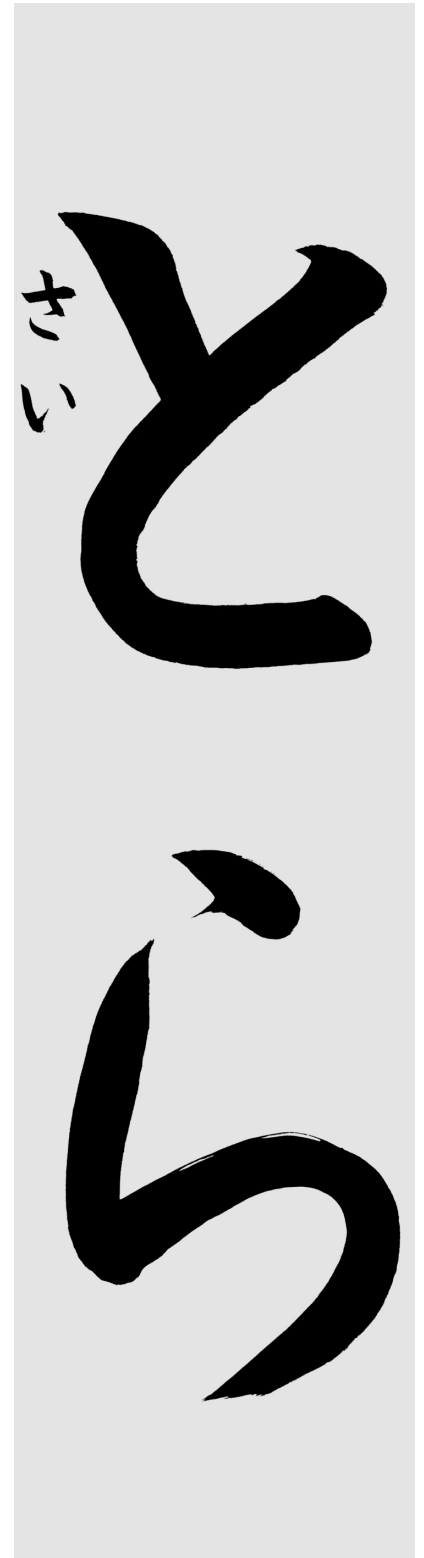
よ う 年



玉樹小華書



玉樹小華書



玉樹小華書

注：コンクール作品は月例競書と兼ねる事ができません。  
両方に出品される方は、二枚お送り下さい。

◆ 1月締切りの課題は、「全国書道コンクール」に合わせて、半切4分の1  
(68cm×17.5cm)に書くか、いつものように半紙に書いてもよろしい。

小 五 年

小 四 年

小 三 年

新  
雪  
光  
る

小  
五

水野香竹書

元  
日  
の  
朝

小  
四

水野香竹書

明  
る  
い  
年

小  
三

水野香竹書

注：コンクール作品は月例競書と兼ねる事ができません。  
両方に出品される方は、二枚お送り下さい。

◆ 1月締切りの課題は、「全国書道コンクール」に合わせて、半切4分の1  
(68cm×17.5cm)に書くか、いつものように半紙に書いてもよろしい。

中二・三年

中一年

小六年

理想心の実現

中二・三

自然を守る

中一

夢と希望

小六

奥村暢之書

奥村暢之書

奥村暢之書

注：コンクール作品は月例競書と兼ねる事ができません。  
両方に出品される方は、二枚お送り下さい。

◆1月締切りの課題は、「全国書道コンクール」に合わせて、半切4分の1  
(68cm×17.5cm)に書くか、いつものように半紙に書いてもよろしい。